



キッツ (6498)

バイテックス買収で半導体真空バルブのグローバル 2 位へ

株式会社バイテックスの買収

- 事業基盤を一変させる半導体分野の買収 – 94 億円を投じたバイテックスの買収により、キッツグループは半導体真空バルブ市場でグローバル 2 位(シェア約 9%)となり、急拡大する日本の WFE(前工程製造装置)サプライチェーンにおける最大手の真空バルブ供給者となる。一見すると小規模なボルトオン買収だが、戦略的意義は大きい。キッツはシェア 71%を握る圧倒的リーダーに対する有力な代替供給者となり、WFE OEM 各社にはこれを支援する強い誘因がある。加えて、業績がサイクルの底にある局面での取得であり、AI 需要に牽引された記録的な半導体設備投資が WFE 支出を押し上げるなか、上振れ余地は大きい。当社は、本買収を、グループ売上高の 13.5%を占めるキッツの半導体製造装置事業の成長を大きく加速させる重要な一手と評価する。

サイクルの底値圏での買収

- カナデビアからバイテックスの全株式を 9,198 百万円で取得 – 取得対価(諸費用込み 9,368 百万円)は全額現金・負債調達で、第 2 期中期経営計画「SHIN Global 2027」の M&A 枠 200 億円の範囲内。バイテックスの 2025 年 3 月期は売上高 9,380 百万円、純利益 491 百万円で、取得価額は実績 PER18.7 倍、実績 PSR0.98 倍に相当する。なお、同期の業績は 2023~2024 年の半導体設備投資の谷を反映した水準である。
- 会社計画の修正は未公表ながら、上振れの公算 – 当社試算では、バイテックスは 2026 年 12 月期の半導体製造装置売上高を会社計画の 265 億円から年率換算 359 億円(グループ売上高の 18%)へ押し上げる。WFE OEM やチップメーカーの強気な設備投資計画を踏まえれば、当社想定にも上振れ余地がある。なお、日本基準ではのれんの定期償却が求められ、会社計画の利益は事業本来の収益力を過小に示す点に留意。
- バリュエーション – 会社予想ベースで、株価は 2026 年 12 月期 PER17.5 倍、PBR1.8 倍で取引されている。

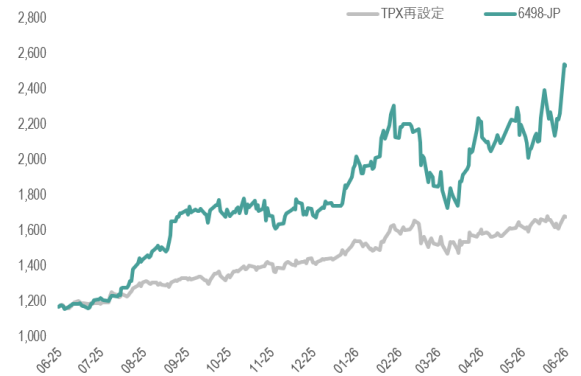
年度	12/22	12/23	12/24	12/25	12/26CE
売上高(10 億円)	159.91	166.94	172.04	176.68	195.00
営業利益(10 億円)	11.05	13.69	14.22	15.46	17.00
純利益(10 億円)	8.55	10.59	11.83	11.47	12.70
EPS(円)	95.35	118.07	132.64	131.85	146.02
1 株当たり配当(円)	33.00	41.00	46.00	53.00	59.00
売上高伸び率(%)	+17.8	+4.4	+3.1	+2.7	+10.4
営業利益成長率(%)	+22.9	+23.9	+3.9	+8.7	+10.0
純利益成長率(%)	+72.5	+23.9	+11.6	-3.0	+10.8
EPS 成長率(%)	+72.5	+23.8	+12.3	-0.6	+10.7
PER(倍)	8.3	10.2	8.6	13.2	17.5
EV/EBITDA(倍)	4.8	5.6	5.0	7.1	-
EV/売上高(倍)	0.5	0.7	0.6	0.9	-
PBR(倍)	0.8	1.1	0.9	1.3	-
ROE(%)	10.0	11.1	11.3	10.1	-
ROCE(%)	8.6	9.8	10.4	9.8	-
FCF 利回り(%)	2.1	7.1	9.0	2.1	-
配当利回り(%)	4.2	3.4	4.0	3.0	2.3

注:過去のバリュエーション指標は各期末の株価を用いて算出しています。

出所:ブルームバーグ、会社データ

2026 年 6 月 17 日

株価: 2,559 円 時価総額: 2,225 億円



出所:ブルームバーグ

リターン	年初来	1M	3M	12M
絶対(%)	+45.5	+15.1	+37.1	+116.6
相対(%)	+28.4	+11.8	+26.5	+72.9

セクター
産業機械・製造業 鉱業・鉱物製品
非鉄金属製品製造(GICS)

株式データ	
株価(円)	2,559
時価総額 (10 億円)	222.5
時価総額 (100 万ドル)	1,387.3
52 週レンジ (円)	1,149 – 2,564
発行株式数 (100 万株)	87.0
日次平均出来高 (100 万ドル)	5.5
浮動株 (%)	67.4
外国人株式保有比率 (%)	24.6
コード	6498
取引所	Tokyo Prime
純有利子負債 / 自己資本 (倍)	0.1
ブルームバーグ 買い ホールド 売り	1 0 0

出所:ブルームバーグ、会社データ

事業概要
キッツは 1951 年創業、東証上場の国内最大手バルブメーカーである。

イベント予定日
2026 年 8 月: 26 年 12 月期第 2 四半期決算発表

電話: +81 3 6868 8797
E メール: Corporateresearch@astrisadvisory.com
本レポートは同社から委託され、支払いを受けて作成されている

株式会社ブイテックスの買収

取引概要

キッツは 2026 年 6 月 1 日、半導体製造装置業界向けの特種真空バルブメーカーである株式会社ブイテックスの全株式(100%)を、カナデビア株式会社(東証:7004)から 92 億円(全額現金)で取得した。キッツは本取引の一環として、韓国の製造拠点ならびに米国・中国の販売拠点を含むブイテックスの海外子会社 3 社も取得した。

買収資金は、資本効率の観点から手元資金ではなく負債で調達した。第 2 期中期経営計画「SHIN Global 2027」で設定した M&A 枠 200 億円の範囲内であり、資本配分の優先順位に変更はない。

なお、キッツは自社の半導体向けバルブ事業(KITZ SCT)との高い戦略的親和性とシナジー機会を踏まえ、本買収について、キッツは 10 年以上前から買収の機会を模索してきた。

今回のブイテックス買収により、キッツは高成長を続ける半導体業界、とりわけ半導体製造装置分野へのエクスポージャーを大きく高めた。

取引概要

主要取引条件	詳細
対象会社	株式会社ブイテックス (非上場、カナデビア(東証:7004)の子会社)
取得株式比率	100.0%
取得対価	現金 92.0 億円 (取引関連費用 1.70 億円を含め 93.7 億円)
被取得会社の純資産	連結ベースで 48.4 億円
業績への影響	精査中、会社計画の修正は未公表

出所: 会社データ

バリュエーション

開示された過去の連結実績に基づけば、キッツはブイテックスを実績 PSR0.98 倍、実績 PER18.7 倍(2025 年 3 月期)で取得した。留意すべきは、同期の業績が半導体設備投資サイクルの底からの回復局面にあたる点である。ロジック・メモリの両チップメーカーとも、企業向け・消費者向け需要の回復を享受している。

参考までに、半導体真空バルブで約 71%のシェアを握る圧倒的なグローバルリーダーである VAT グループ(SIX:VACN)は、実績 PER86.3 倍、実績 PSR16.9 倍で取引されている。VAT グループの支配的な市場地位や事業規模の優位性を勘案しても、ブイテックスの取得バリュエーションとの乖離は大きい。

キッツはブイテックスを実績 PER18.7 倍で取得しており、これは実績 PER86.3 倍で取引される上場業界リーダーに対して大幅なディスカウントとなる。

主要な取引バリュエーション指標

バリュエーション指標	倍率	注記
P/Sales (2025 年 3 月期売上高)	0.98x	取得価格 (9,198 百万円) ÷ 2025 年 3 月期売上高 (9,380 百万円)
PER (2025 年 3 月期利益)	18.73x	取得価格 (9,198 百万円) ÷ 2025 年 3 月期純利益 (491 百万円) 利益は半導体設備投資サイクルの回復を反映
P/Sales (2023 年 3 月期売上高)	0.82x	取得価額 (9,198 百万円) ÷ 2023 年 3 月期売上高 (11,224 百万円)
PER (2023 年 3 月期利益)	10.42x	取得価額 (9,198 百万円) ÷ 2023 年 3 月期純利益 (883 百万円) 業績は半導体設備投資サイクルのピークを反映
PBR	1.90x	取得価格 (9,198 百万円) ÷ 2025 年 3 月期純資産 (4,836 百万円)

出所: 会社データ、アストリス・アドバイザリー

前回の半導体設備投資サイクルのピーク局面であった 2023 年 3 月期には、ブイテックスは連結売上高 112.2 億円、純利益 8.9 億円を計上しており、取得価額対比では PSR0.82 倍、PER10.4 倍に相当する。ロジック、メモリ、先端パッケージングを中心に半導体業界全体で記録的な設備投資が計画されていることを踏まえれば、当社は 2023 年 3 月期の業績がブイテックスの足元の収益トレンドを反映しているとみる。

株式会社ブイテックスについて

ブイテックスは 1949 年に設立され、日立造船(現カナデビア)グループの傘下で、半導体製造装置向けの真空バルブを開発・製造してきた。同社の真空バルブはグローバルの半導体製造装置サプライチェーン全体で採用されているが、最も強固な地位を築いているのは日本国内の半導体サプライチェーンである。同社は日本と韓国に製造拠点を構え、米国・中国の販売拠点を通じて海外での商流を維持している。

ブイテックスの中核製品であるスリット(ゲート)バルブと振り子式圧力制御バルブは、最も強い需要と成長がみられる半導体製造装置市場、すなわち先端ノード・先端プロセスに直接的なエクスポージャーを有する。先端ノードの世代交代(例: 2nm)やアーキテクチャの進化(例: GAA、CFET 等)が進むたびにプロセス工程数は増加し、ALD やクライオエッチングなど真空度要求の高い成膜・エッチング技術の採用が広がり、装置 1 台当たりの真空チャンバー数も増える。

顧客はファウンドリやチップメーカーではなく半導体製造装置メーカーである。装置の更新需要に支えられるため、需要の振れはチップメーカー向けビジネスに比べて小さい。

半導体サプライチェーンにおけるブイテックスのポジショニング

コンシューマー/ ハイパースケーラー	Walmart  Microsoft Azure  amazon web services 
電子機器 メーカー	Apple  SAMSUNG  DELL Technologies 
IDM/半導体メーカー	tsmc  SK hynix  micron  KIOXIA 
製造装置 メーカー	TEL TOKYO ELECTRON  Lam RESEARCH  APPLIED MATERIALS  KLA 
重要 サブシステム	KITZ  V-TEX  VAT 
素材 メーカー	DU PONT  siltronic perfect silicon solutions  ShinEtsu 

出所: アストリス・アドバイザー

VAT グループは、真空関連 WFE の市場が 2025～2029 年に年率+12%で成長すると予想しており、これは同期間の非真空関連 WFE の成長率+2%を大きく上回る。さらに、成長は 7nm 未満の先端ノードに集中する見通しである。

一方、半導体業界の設備投資サイクルは歴史的に変動が非常に大きく、好不況を繰り返してきた。このサイクルは近年のブイテックスの業績にも大きく影響しており、2024 年 3 月期の利益が谷に当たるとみられる。

ブイテックスの業績は、半導体設備投資サイクルがピーク・谷・急回復をたどるなか、2023 年 3 月期～2025 年 3 月期にかけて大きく変動した。

ブイテックスの連結主要財務指標

(百万円)	FY3/23	FY3/24	FY3/25
売上高	11,224	7,762	9,380
売上高成長率(%)	—	-30.8%	+20.8%
営業利益(損失)	1,497	542	549
営業利益率(%)	13.3%	7.0%	5.9%
当期純利益	883	452	491

出所: 会社データ

繰り返しになるが、WFE 支出が回復局面にあり、キッツが 2026 年 12 月期第 1 四半期に半導体製造装置向けで過去最高の受注を計上していることから、ブイテックスの売上見通しは明るい。ブイテックスは 2023 年 3 月期のピーク時に 13.3%の営業利益率を確保しており、これは谷の 5.9%を大きく上回ることから、売上回復に伴うオペレーティングレバレッジの効果は大きいとみられる。稼働率が正常化するなかで、利益率は 2025 年 3 月期の水準から大きく改善し得ると考える。

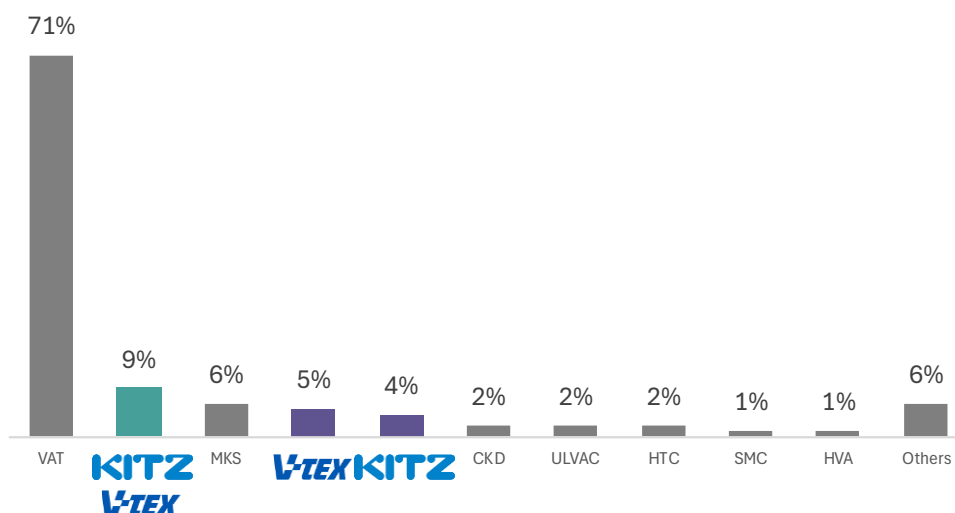
キッツへの示唆

キッツはすでに、子会社 KITZ SCT を通じて WFE 業界向けの特種真空バルブを手掛ける確立したメーカーである。KITZ SCT は超高純度のガス・薬液供給バルブ(ガスパネル向けのダイヤフラムバルブ、継手)や真空排気バルブを製造しており、これらはブイテックスの製品とは異なる領域にある。ブイテックスの買収は KITZ SCT の製品ラインアップを大きく補完し、統合後は既存顧客に対する提案の幅が広がる。

キッツはブイテックス買収に伴うシナジー目標を公表していないが、当社はクロスセルや既存顧客とのより深い統合を起点に、売上面で大きなシナジー機会があるとみる。半導体製造装置は開発サイクルが長く、主要顧客との製品共同開発が業界全体で一般的である。キッツが包括的な真空バルブのラインアップを提供できるようになったことで、共同開発案件が増え、主要顧客とのより深い統合と売上機会につながる道が開けると考える。

KITZ SCT とブイテックスは、統合により半導体製造装置向け真空バルブ業界のグローバルリーダーを形成する。

半導体真空バルブのグローバル市場シェア(2025 年 4 月時点)



出所: TechInsights、アストリス・アドバイザリー

ブイテックスの取得により、KITZ SCT は半導体真空バルブで名実ともにグローバル 2 位となり、日本の半導体製造装置サプライチェーンにおいて支配的な地位を築く。VAT グループ(シェア 71%)、キッツ・ブイテックス(同 9%)、MKS インストルメンツ(同 6%)を除けば、半導体真空バルブ業界はシェアを低下させつつある多数の中小サプライヤーに分散している。

この統合には、シェア拡大にとどまらない産業上の合理性がある。東京エレクトロン、ASML、アプライド マテリアルズ、KLA をはじめとする WFE OEM 各社にとって、71%のグローバルシェアを握る準独占的な供給者に対抗し得る有力な競合を支援する誘因は極めて強い。ブイテックス買収を経て、キッツは事業規模、幅広い製品ラインアップ、そして主要なグローバル WFE OEM との数十年にわたる認定実績を背景に、業界リーダーに対する事実上の代替供給者となる地位を獲得した。

プロフォーマでは、ブイテックスにより、2026 年 12 月期の会社計画ベースでキッツの半導体製造装置売上高はグループ売上高の約 18%に高まる。

ブイテックス寄与(年率換算、例示ベース)を織り込んだキッツのプロフォーマ

(10 億円)	キッツ FY12/26 会社計画	ブイテックス FY3/25 実績※	キッツ + ブイテックス プロフォーマ
半導体製造装置売上高	26.5	9.4	35.9
売上高	195.0	9.4	204.4
営業利益(損失)	17.0	0.5	17.5
営業利益率(%)	8.7	5.9	8.5

※:キッツへの事業上の影響をより明確に示すため、ブイテックスの売上高・利益の寄与を年率換算している

出所:会社データ、アストリス・アドバイザー

プロフォーマの半導体製造装置売上高は 359 億円に達し、キッツの連結売上高の 18%を占める見通しである。もっとも、このプロフォーマは WFE 需要の改善や KITZ SCT とのシナジーを織り込んでおらず、当社は保守的とみる。

キッツの予想 PER は同業比でディスカウントにあり、主力バルブ事業に対する低い成長期待を反映しているとみられる。一方、半導体製造装置部品の専業サプライヤーは、キッツに対して大幅なプレミアムで取引されている。

主要な収益性・バリュエーション指標の同業他社比較分析

ティッカー	会社名	時価総額 (百万米ドル)	収益性				バリュエーション				
			直近 12 か 月の営業利 益率(%)	10 年平均 営業利益率 (%)	直近 12 か 月の ROE (%)	10 年平均 ROIC (%)	EV/EBITDA 12 か月フォ ワード (倍)	EV/売上高 12 か月フォ ワード (倍)	配当利回り 12 か月フォ ワード (%)	PER 12 か月フォ ワード (%)	PBR (倍)
6498 JP	Kitz Corporation	1,387	8.7	7.5	10.8	6.1	7.9	1.1	2.6	14.7	1.8
国内同業企業											
6407 JP	CKD Corporation	3,130	12.4	9.8	9.4	7.3	13.6	2.6	1.5	25.6	3.3
6273 JP	SMC Corporation	27,172	22.6	28.3	8.3	9.5	12.2	3.6	1.6	23.3	2.1
6728 JP	ULVAC, Inc.	2,765	8.0	10.8	5.7	9.7	8.5	1.4	1.9	18.9	1.9
6856 JP	Horiba, Ltd.	7,074	15.6	13.8	11.6	9.0	12.0	2.7	1.8	22.3	3.3
中央値			14.0	12.3	8.8	9.3	12.1	2.7	1.7	22.8	2.7
海外同業企業											
FLS US	Flowserve Corporation	10,290	12.6	9.3	16.5	6.4	12.4	2.3	1.1	18.7	4.6
AALB NA	Aalberts N.V.	4,963	9.4	10.5	6.0	9.0	8.5	1.7	2.9	13.8	1.8
IMI LN	IMI plc	9,554	18.5	15.2	28.2	14.0	13.2	3.2	1.3	20.5	6.6
VACN SW	VAT Group AG	25,137	24.7	26.2	27.7	19.7	40.0	13.8	1.3	54.6	25.1
MKSI US	MKS Inc.	24,742	15.0	17.8	12.7	7.5	20.5	5.5	0.3	27.8	8.8
ENTG US	Entegris, Inc.	23,121	16.0	17.0	6.8	9.1	24.9	7.3	0.2	36.9	5.7
中央値			15.5	16.1	14.6	9.0	16.9	4.4	1.2	24.1	6.2

出所:ファクトセット、ブルームバーグ、アストリス・アドバイザリー



サマリー

キッツは 1951 年創業、東証上場の国内最大手バルブメーカーである。多品種少量生産を特徴とする一貫生産体制のもと、以下の 3 セグメントを展開している。

- バルブ事業 (2025 年 12 月期売上高 1,414 億円)
- メタルソリューション事業 (旧・伸銅品事業、同 325 億円)
- その他 (同 28 億円)

キッツは各種材質の鋳物や黄銅棒の自社生産を維持しており、原材料から最終製品までサプライチェーンを一貫して管理している。前中期経営計画では、成熟したコア市場で創出したキャッシュフローを半導体を中心とする高採算のグロース領域へ規律をもって再投資した結果、ROE は 6.4% から 11.3% へ上昇し、営業利益は過去最高の 154 億円に拡大した。

第 2 期中期経営計画「SHIN Global 2027」(2025 年 12 月期～2027 年 12 月期)では、売上高 2,000 億円、営業利益 200 億円、ROE11%以上を目標とし、長期ビジョン「Beyond New Heights 2030」では ROE13%以上を掲げる。

中期的な成長ドライバーは以下の 2 点である。

- グロース市場への投資継続と加速。グロース市場の売上高成長率目標は年率+17% (コア市場は同+3%)で、半導体とデータセンターが中核。
- 利益率と資本効率の継続的な改善。高採算の半導体・クリーンエネルギー顧客への売上構成シフト、グループ全体での調達最適化、SBU 主導の製品合理化によるコスト効率化が牽引。

会社予想ベースで、株価は 2026 年 12 月期 PER17.5 倍、PBR1.8 倍で取引されている。



JGAAP に基づく要約財務諸表

損益計算書 (10 億円)	期 12/21	期 12/22	期 12/23	期 12/24	期 12/25
売上高	135.8	159.9	166.9	172.0	176.7
売上原価	(101.3)	(121.1)	(123.4)	(127.1)	(129.7)
売上総利益	34.5	38.8	43.5	45.0	47.0
売上総利益率(%)	25.4	24.3	26.1	26.1	26.6
営業利益	9.0	11.1	13.7	14.2	15.5
営業利益率(%)	6.6	6.9	8.2	8.3	8.7
営業外収益	0.9	1.5	1.2	1.5	1.6
営業外費用	(0.7)	(0.3)	(0.2)	(0.2)	(0.6)
経常利益	9.0	12.0	14.5	15.3	16.1
特別利益	0.1	0.0	1.2	1.3	0.4
特別損失	(1.4)	(0.1)	(0.3)	(0.1)	(0.1)
税引前当期純利益	7.7	12.0	15.3	16.5	16.4
法人税等	(2.6)	(3.3)	(4.4)	(4.5)	(4.7)
実効税率(%)	33.9	27.3	28.8	27.3	28.7
当期純利益	5.1	8.7	10.9	12.0	11.7
非支配株主に帰属する当期純利益	0.1	0.2	0.3	0.1	0.2
親会社株主に帰属する当期純利益	5.0	8.6	10.6	11.8	11.5

売上高前年比伸び率(%)	-	+17.8	+4.4	+3.1	+2.7
営業利益前年比伸び率(%)	-	+22.9	+23.9	+3.9	+8.7
税引前当期純利益前年比伸び率(%)	-	+55.8	+27.3	+7.8	-0.3
純利益前年比伸び率(%)	-	+72.5	+23.9	+11.6	-3.0

貸借対照表 (10 億円)	期 12/21	期 12/22	期 12/23	期 12/24	期 12/25
現金・預金	27.9	24.4	29.0	30.7	28.2
商品及び製品	26.8	33.0	37.0	37.3	42.0
売掛金	30.0	33.5	34.3	35.3	36.6
その他	1.8	2.3	3.5	3.1	3.4
流動資産	86.6	93.2	103.9	106.4	110.3
有形固定資産	41.4	45.2	49.9	54.4	61.6
無形固定資産	4.6	3.2	2.0	1.7	2.2
関係会社株式	-	-	-	-	-
投資等	6.8	7.1	6.9	5.5	5.7
その他	4.0	3.9	4.1	4.4	4.6
固定資産	56.8	59.4	62.8	66.0	74.0
資産合計	143.4	152.6	166.7	172.4	184.3
短期借入金	13.6	3.2	2.8	12.1	3.3
買掛金	8.0	9.0	8.9	9.5	9.9
その他	11.3	11.2	14.8	13.8	14.0
流動負債	32.9	23.3	26.5	35.4	27.2
長期借入金	25.3	33.8	33.8	22.7	30.6
その他長期負債	3.9	4.4	4.2	4.5	6.7
長期負債	29.2	38.2	38.0	27.2	37.3
株主資本	80.4	89.9	100.9	108.4	118.2
新株予約権	-	0.0	-	-	-
非支配株主持分	0.9	1.1	1.3	1.4	1.6
純資産	81.3	91.0	102.2	109.8	119.8
負債・純資産合計	143.4	152.6	166.7	172.4	184.3

注: バリュエーション指標は各期末の株価を用いて算出しています。
出所: 会社データ

キャッシュフロー計算書 (10 億円)	期 12/21	期 12/22	期 12/23	期 12/24	期 12/25
税引前当期純利益	7.7	12.0	15.3	16.5	16.4
減価償却費	6.8	6.9	7.4	7.1	7.2
運転資金の増減	(7.9)	(6.6)	(2.3)	0.3	(4.9)
その他の非現金項目	2.9	0.8	(0.5)	(0.7)	(0.3)
法人税等支払額	(1.1)	(4.6)	(3.8)	(4.6)	(4.8)
営業活動によるキャッシュフロー	8.3	8.5	16.0	18.6	13.6
設備投資	(3.7)	(7.4)	(8.9)	(10.1)	(11.3)
投資有価証券	-	-	-	-	-
その他の投資活動によるキャッシュフロー	0.5	(0.1)	1.5	2.2	1.0
投資活動によるキャッシュフロー	(3.2)	(7.5)	(7.4)	(7.8)	(10.3)
配当金支払額	(1.2)	(2.3)	(3.2)	(3.8)	(4.2)
社債発行による収入(償還による支出)	(9.4)	(2.1)	(0.4)	(1.8)	(0.9)
株式発行による収入(自社株買いによる支出)	-	(0.01)	(0.05)	(3.02)	(0.11)
その他	(0.95)	(1.11)	(1.49)	(1.33)	(0.82)
財務活動によるキャッシュフロー	(11.5)	(5.6)	(5.2)	(9.9)	(6.1)
為替影響	0.8	0.9	0.9	1.2	0.3
ネットキャッシュフロー	(5.7)	(3.6)	4.3	2.0	(2.4)

フリーキャッシュフロー (FCF)	4.6	1.1	7.1	8.5	2.3
EBITDA	15.8	18.0	21.1	21.3	22.6
EBITDA 利益率(%)	11.6	11.2	12.6	12.4	12.8
FCF マージン(%)	3.4	0.7	4.3	4.9	1.3
FCF コンバージョン(%)	59.5	9.4	46.6	51.6	14.3
設備投資/売上高(%)	2.7	4.6	5.3	5.8	6.4
設備投資/減価償却(%)	54.6	107.0	120.4	141.1	157.9
営業 CF マージン(%)	6.1	5.3	9.6	10.8	7.7

主要指標	期 12/21	期 12/22	期 12/23	期 12/24	期 12/25
収益性					
売上総利益率(%)	25.4	24.3	26.1	26.1	26.6
営業利益率(%)	6.6	6.9	8.2	8.3	8.7
当期純利益率(%)	-	5.3	6.3	6.9	6.5
ROA(%)	3.5	5.8	6.6	7.0	6.4
ROE(%)	6.2	10.0	11.1	11.3	10.1
ROCE(%)	8.1	8.6	9.8	10.4	9.8
ROIC(%)	10.0	6.5	7.4	7.4	7.5
流動性					
流動比率(倍)	2.6	4.0	3.9	3.0	4.0
クイック比率 (倍)	1.8	2.6	2.5	2.0	2.5
負債比率					
D/E レシオ(倍)	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3
ネット D/E レシオ(倍)	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0
自己資本比率(倍)	0.6	0.6	0.6	0.63	0.6
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	33.4	43.5	51.8	57.1	45.6
ネットデット/EBITDA (倍)	0.7	0.7	0.4	0.2	0.3
バリュエーション					
EPS(公表値) (円)	55.3	95.4	118.1	132.6	131.9
PER(倍)	12.9	8.3	10.2	8.6	13.2
希薄化後 PER(倍)	12.9	8.3	10.2	8.6	13.2
DPS (円)	20.0	33.0	41.0	46.0	53.0
配当性向(%)	36.2	34.6	34.7	34.7	40.2
配当利回り(%)	2.8	4.2	3.4	4.0	3.0
株主総収益率(%)	2.8	4.2	3.4	5.7	3.1
FCF 利回り (%)	7.5	2.1	7.1	9.0	2.1
希薄化後 FCF 利回り(%)	7.5	2.1	7.1	9.0	2.1
PBR(倍)	0.8	0.8	1.1	0.9	1.3
EV/売上高倍率(倍)	0.6	0.5	0.7	0.6	0.9
EV/EBITDA 倍率(倍)	5.0	4.8	5.6	5.0	7.1
EV/EBIT 倍率(倍)	8.7	7.8	8.7	7.5	10.4



免責事項

本レポートは、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が作成したものです。本レポートは、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が信頼できると考える公開情報源から入手した情報に基づいていますが、独自検証は行っており、その正確性や完全性について表明、保証をするものではありません。本レポートは、当該企業について言及すべき全事項を記載したものではなく、また、記載を試みるものでもありません。ここに記載された意見は、本レポート作成時点におけるアストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社の判断を反映したものであり、予告なく変更される場合があります。本レポートに記載されている将来の見通しに関する情報または記述には、仮定、今後の業績予測、未確定な金額見積もりなどに基づく情報が含まれているため、既知および未知のリスク、不確実性および、このテーマに関する実際の結果、業績または成果が現在の予想とは大きく異なる可能性をもたらすその他要因が含まれています。

本レポートは概説として作成されたものであり、特定の金融商品または戦略を個人的に推奨するものではなく、また個人的な投資アドバイスを構成するものでもありません。

アナリストは、(i) 本レポートで表明する見解は、本レポートの対象である企業および証券に関する当該リサーチアナリストの個人的見解を正確に反映していること、(ii) 当該リサーチアナリストの報酬のいかなる部分も、直接的にも間接的にも当該リサーチアナリストが本レポートで述べた見解に過去、現在、未来を通して関連しないことをここに証明します。

本レポートは、日本法に基づき設立され、日本の金融庁の監督下にあるアストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社により作成されました。現地当局による規制範囲に関する詳細をご要望の場合は、弊社から入手可能です。

利益相反

本レポートは、当該企業が委託して費用を負担したものであり、MiFID II で定義される許容可能な軽微な非金銭的利益に該当すると判断されるものです。

読者は、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が、現在、もしくは今後 3 ヶ月以内およびその後、当該企業に対して IR/コーポレート・アドバイザリーなどのサービスを提供する、または提供することを求める可能性があることを前提とする必要があります。

記載金融証券への投資: アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、取締役、役員、従業員およびサービスプロバイダーの個人的な取引について制限的な方針をとっています。アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、投資業務を行っておらず、本レポート記載の金融証券は一切保有していません。

責任制限

アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、本レポートに基づき投資家が行った投資、売却、保有の決定に関して、いかなる責任も負わないものとします。アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、本レポートの情報に起因する直接的、間接的、偶発的、特別、または結果的損害(予見可能か否かを問わず)に対して、一切の責任を負わないものとします。

Copyright 2026 Astris Advisory Japan K.K. All rights reserved.

全著作権所有。無断転載禁止